

## お米にまつわるお役立ち情報

今年も無事にお米の収穫時期を迎え、嬉しい新米のシーズンがやってきました。今月号は「新米」と「新嘗祭(にいなめさい)」についてお届けしたいと思います。日本人とお米の関係性はとても深いことを改めて知ると、より美味しく、感謝してご飯を食べることができると思います。

### ★「新嘗祭についてご存じですか?」★

新嘗祭(にいなめさい)は11月23日に行われる収穫祭ですが、その年の収穫に感謝し、新穀を神様にお供えします。天皇陛下が新穀を神々に捧げ、自らも食する儀式です。古くから行われており、日本書紀や古事記にも記載があります。戦後、11月23日は「勤労感謝の日」という祝日になりましたが、新嘗祭の伝統は現在も続いています。その歴史は長く、起源は弥生時代に遡ると考えられています。

旧暦では11月の2番目の卯の日に行われていましたが、明治6年に新暦への移行に伴い、11月23日になりました。日本の伝統的な祭りとして、長い歴史を持ちながら現在も続いています。



天照大神(アマテラスオオミカミ)が邇邇芸命(ニニギノミコト)へ斎庭(ゆにわ)の稲穂を授け、それが今の私たちの食べるお米になっているという神話があります。

### ★昔は新嘗祭までは新米を食べてはいけないと言われていた! ? ★

新嘗祭が執り行われるまで、その年に収穫された米を口にはしないという言い伝えがあります。この慣習の背景には、かつての稲刈りが手作業で行われていた時代の事情があるようです。

昔の農法では、9月頃から収穫作業に取り掛かって、米を収穫、脱穀し、俵に詰めるまでに約2ヶ月を要したとされています。この一連の工程が完了するのが、ちょうど新嘗祭が行われる11月頃だったのです。

さらに、神々や天皇陛下よりも先に新米を食することは恐れ多いという思想も加わり、新嘗祭までは新米の摂取を控えるという風習が形成されたと考えられています。この伝統的な慣習は、日本の農耕文化と宗教観が融合した結果として捉えることができるかもしれませんね。

収穫の秋で食欲が増進する時期ですが、新米にまつわるこのような文化的な背景へも思いをはせ感謝しながら美味しくご飯を食べていきたいですね!



伊勢神宮での新嘗祭の様子  
(画像:伊勢神宮のHPより)